

《房総子どもかるたルール》

1. 競技の心がけ

「房総子どもかるた」は私たちが楽しく遊びながら、私たちの郷土である千葉県の歴史上有名な人物や、主な産物、代表的な都市、山、川などを正しく理解し、「かるた」を通して、郷土への愛着を感じ、ふるさと意識が醸成されることを願って作られたものです。

この「かるた」で遊ぶときは、房総子どもかるたルールに基づき、選手は礼儀正しく正々堂々と競技し、お互いの品性を高めるように心がけましょう。

そして競技役員はこれを尊重して運営にあたるようにしましょう。

2. 競技の種類

(1) 団体競技

- ① 対戦は3人一組です。補欠選手は1名とします。
- ② 当日、急に出場できなくなった場合は補欠選手と交代します。ただし、補欠選手がいない場合は、登録選手2名の対戦となります。
- ③ 選手が試合中、ケガや健康上、試合継続不可能となった場合は2名で対戦します。また、その試合への復帰判断は審判員がします。ただし、1名の場合は棄権となり、相手の勝利となります。

(2) 個人競技

- ① 1人对1人で対戦します。
- ② 選手の交代は認められません。試合中、ケガや健康上、試合継続不可能と審判員が判断した時は、棄権となり相手の勝利となります。

3. 競技に必要な係

- (1) かるた指導員【審判長・副審判長】・・・かるた大会全般の指導に当たります。
- (2) 進行係・・・競技を進める係で、赤旗が回った場合は、試合の進行を中断します。
- (3) 読み手・・・読み札を読む係
- (4) 審判員・・・
 - ① 競技を公平に判定する係。
 - ② 審判員は常に赤旗を手に持ち、責任をもって処理します。
 - ③ 勝敗は両チームに確認の上、結果を記録表に記入し、速やかに記録係に提出をします。
 - ④ 競技の問題点、その他進行を妨げることが発生した時は、赤旗を上げて回し、試合を中断します。処理を速やかにした上で試合を続行します。
- (5) 記録係・・・記録表を回収し、点数や順位を掲示する係

4. 競技に用いる札の数

取り札、読み札とも44枚

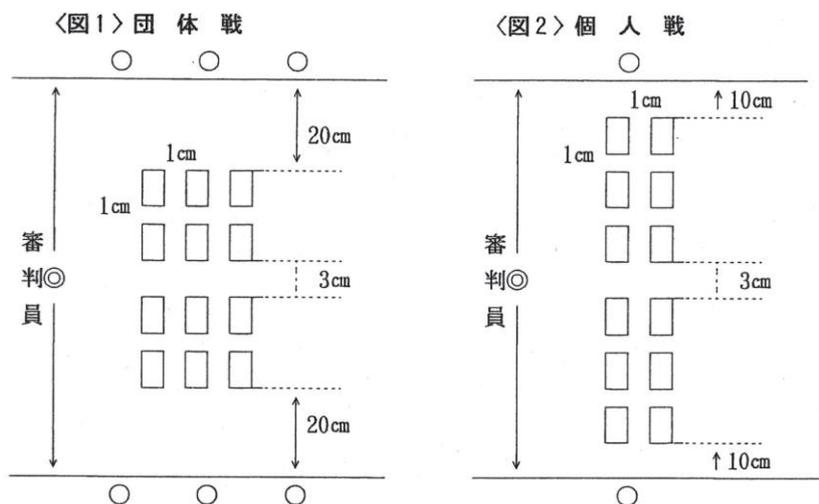
5. 競技の準備

(1) コートの範囲（図1・図2参照）

- ① 団体競技
 - ・選手はコートに3人が向かい合って位置につきます。
 - ・審判員は陣地外側の中央に位置し、旗をもって正面に向かって座ります。
- ② 個人競技
 - ・個人戦は団体競技に準じます。

(2) 札の並べ方

- ① 進行係の指示で個人・団体とも審判員は取り札を対戦者の中央に置きます。
- ② 進行係の合図で代表者がジャンケンをし、勝った選手が札を裏側にして、半分に分けて前に置きます。
- ③ 分けた札は、ジャンケンに負けた選手が先に取ります。
- ④ 札は、団体の場合は2段、個人の場合は3段に図1・図2の間隔で並べます。
個人戦の場合は、札が1枚余るので上段の左右どちらかに並べます。
- ⑤ 札の並べ替えは、進行係の指示以降は禁止とします。



6. 競技

(1) 競技する姿勢

- ① 競技の始めと終わりには、お互いに札をします。
- ② 正座して、ひざ頭とかるたの距離が団体戦は20cm、個人戦は10cmとします。
- ③ 札を取る前の姿勢は、頭は札にかぶらないようにし、手は必ずそれぞれのひざの上に置き、指先はひざ頭より前に出ないようにします。
- ④ 札を取るときは、必ず片手で取ります。
- ⑤ 札の取り方は、押さえても、はじいても、押しても、引いても、飛ばしてもいいです。

(2) 競技方法

- ① 進行係の合図で、読み手は始めに「から札」を2回読みます。これが予告でスタートとなり、次に読まれる札から取りはじめます。
- ② 読み札は1回読みとします。読み始めたらずぐに取れます。取り札に早く手が触れた人がかかるを取れます。
- ③ 読み始めてから、赤旗が上がった場合は、そのまま続行し、そのコートだけ無効となり、札は審判員あずかりとなります。
- ④ 取り札が最後の2枚になったら、どちらの陣営の札が残っても両陣地の真ん中に文字を交互にして、横幅30cm位離して並べます。ただし、団体戦の場合は3人のうち代表者が最後の2枚に挑戦します。
- ⑤ 最後の2枚の準備ができたなら、読み手は試合開始のときと同じように「から札」を2回読み、その後の読み札が取り札となります。
- ⑥ 最後の1枚を取った方が残りの札の1枚を取ることができます。

(3) あいこ

かるたに両チームの手が同時に触れた場合は、審判員あずかりとなります。

(4) おてつき

- ①おてつきの判断は審判員が行います。
- ②読まれた札以外の札に手を触れたら「おてつき」となり、自分たちが取った札の中から1枚を相手チームに渡します。ただし、両方のチームが同時に「おてつき」をしたとき、また、持ち札のないときは、渡す必要はありません。正しい札は審判員あずかりとなります。
- ③味方チームの2人または3人が同時に「おてつき」をした場合でも相手チームに渡す札は1枚です。
- ④正しい札を取っても味方に「おてつき」のあった場合、その正しい札は審判あずかりとなり自分たちが取った札の中から1枚を相手チームに渡します。
- ⑤「おてつき」をした人が、取り直して正しい札を取ったときは審判あずかりにせず、相手チームのものとなります。ペナルティー1枚、計2枚が相手チームのものとなります。
- ⑥試合開始と最後の2枚になったとき、「から札」を読んでいる間に札にふれた場合は「おてつき」となります。
- ⑦最後の2枚になったときの「おてつき」は取る権利がなくなるので、ペナルティーの1枚と最後の2枚の計3枚が相手にいくこととなります。

(5) 得点

- ①取り札は、1枚につき1点とし、多く取ったチームの勝ちとなります。
- ②団体・個人戦とも、同点の場合には「から札」を持っているチームの勝ちとなります。ただし、同点で「から札」が審判員あずかりのときは、向かい合ってる3組でジャンケンをして、2勝以上したチームの勝ちとなります。

(6) ペナルティー

- ①出場選手は、試合中審判員の指示に従ってください。ルール違反をした場合は注意をします。
- ②審判員の注意に従わない場合は、イエローカードを渡します。
- ③審判員より2枚カードを受けたチームは自分達が取った札の中から1枚を相手チームへ渡します。

7. 抗議方法

- ①競技方法・判定に異議があるときは、直接相手チームに抗議しないで、すべて審判員を通じてください。
- ②引率者の抗議については、次の試合が始まるまでの間とします。
※決勝戦については、試合終了後10分を目安とする。

8. その他

このルールによらない事項などについては、指導員の判断にゆだねます。

9. 「房総子どもかるた」ルールは千葉県内での適用となります。

10. 「房総子どもかるた」ルールは平成17年7月2日に一部改定されました。
「房総子どもかるた」ルールは平成22年5月21日に一部改定されました。

11. 団体戦の選手変更（東金大会のみ適用）

- ①受付時まで選手の変更は可能とする。
- ②変更する選手は同学年以下の者とし男女は問わない。
- ③選手の変更に伴う高学年の部から低学年の部等のクラス変更はできない。